

主題：
ヨハネの繕う務め

メッセージ 6

命が愛の中で洗い、交わりを維持する

聖書：ヨハネ13:1-17

- I. 「イエスは、この世を去って父へと至る時が来たことを知り、世にいるご自分の者たちを愛し、極みまで愛された。父がすべてをご自分の手に与えられたこと、またご自分が神から来て、神に行こうとしていることを知って、晩餐の席から立ち上がり、上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って、腰に巻かれた。それから、たらいに水を注ぎ入れ、弟子たちの足を洗い、腰に巻いた手ぬぐいでふき始められた」——ヨハネ13:1-5：
- A. ここの上着は、主によって表現された主の美德と属性を表徴します。ですから、彼が上着を脱ぐとは、彼によって表現された彼であるものを脱ぎ去ることを表徴します。
- B. 腰に巻くとは、へりくだりをもって縛られ、制限されることを表徴します——参照、I ペテロ5:5。
- C. ここの水は聖霊（テトス3:5）、言葉（エペソ5:26、ヨハネ15:3）、命（19:34、10:10、I コリント15:45後半、II コリント3:6、I ヨハネ5:16）を表徴します。
- II. ヨハネによる福音書はしるしの書ですから、第13章に記録されているものも、やはり霊的意義を持つしるしと考えられるべきです——1-17節：
- A. 足を洗うことは、単に物理的な意味ではなく、むしろ、さらに内在的に、より深く、より重要で霊的な意味で取られるべきです。
- B. ヨハネによる福音書第1章から第12章で命が来て、再生された者たちで構成された召会を生み出しました。再生された者たちは、彼らの霊の中では、神の中に、また天にいますが、彼らの体の中では、まだ肉の中に生きており、地上を歩んでいます。
- C. 彼らは地のものとの接触を通して、しばしば汚れます。これは主との交わり、また彼ら相互の交わりを阻害します。ですから、聖霊と言葉と命をもって、洗う必要があるのです。
- D. こうして汚れを洗い去ることによって、主との交わり、また互いの交わりが維持されます。それは、血によって罪を洗い去ることではありません（I ヨハネ1:9）。ですから第12章の後、この章でそのようなしるしが必要であるのです。
- E. 古代のユダヤ人はサンダルをはきました。それに当時の道路はほこりが多かったので、彼らの足はすぐに汚れました。もし彼らが宴席に来て、食卓に着き、足を伸ばしたのでしたら、汚れと不快なおいで、確かに交わりは阻害されたでしょう。ですから、その宴席が喜ばしくなるためには、足を洗う必要がありました：
1. 主は彼の弟子たちの足を洗って、彼らを極みまで愛していることを示し（ヨハネ13:1）、また同じことを互いに愛の中で行なうよう命じました：
- a. 「それで、主であり先生であるわたしが、あなたがたの足を洗ったのだから、

あなたがたも互いに足を洗い合うべきである」——14節。

b. 「わたしは新しい戒めをあなたがたに与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」——34節。

2. 今日、この世は汚れており、わたしたち聖徒は、容易に汚染されます。わたしたちは、主との交わり、また相互の喜ばしい交わりを維持するために、霊的な足洗いを必要とします。それは、洗う聖霊、洗う言葉、洗う命をもって、主によって彼の愛の中で、また互いに愛の中で行なわれます。

3. これは、わたしたちが、ヨハネによる福音書の継続であるヨハネの第一の手紙に啓示された神聖な命の交わりに生きるために、絶対に必要です。

Ⅲ. 足洗いを経験するために、わたしたちは主の臨在の中で、その霊、言葉、神の命に満ちた聖徒たちと共に時間を費やす必要があります——参照、マタイ6:6. Iコリント16:17-18 :

A. わたしたちが主の臨在の中にとどまるなら、主はわたしたちに来て、血をもってではなく、その霊、生ける言葉、内なる命をもって、わたしたちを洗うでしょう :

1. わたしたちがそのような洗いを必要とするときはいつでも、ただあなた自身を主に開いて、彼の臨在の中で時間を費やし、内なる命をあなたの内に流させなさい。

2. 自然に、生きたものがあなたに注がれ、流れ、洗い、あなたは再び清くなります。あなたの霊は引き上げられ、あなたの全存在は主の臨在の中でとても喜ばしくなります。

B. 「あなたがたも互いに足を洗い合うべきである」——ヨハネ13:14 :

1. わたしたちの経験において、主イエスご自身と大量の命を持っている聖徒たちはそのような洗いをわたしたちに与えることができます。

2. それは互いに分け与える霊的な足洗いであり、地のものとの接触からわたしたちを清く保ちます。地上を歩み、地上で働いている間に、あなたは直接あなたの霊の内側に分け与えられる主の足洗いでなく、兄弟姉妹からの足洗いを必要とします。

3. わたしたちが他の人の足を洗おうとするときはいつでも、「わたしたちの衣を脱ぐ」ことによって主の模範に倣う必要があります。これは、わたしたちの達成、美德、特質を脱ぐことです :

a. わたしたちはへりくだり、自分を空にしなければなりません。多くの人は霊性という衣を身につけます。彼らは霊的であることを誇ります。

b. わたしたちの衣を脱ぐとは、自分自身を御座から引き下ろすことを意味します。

4. 手ぬぐいを腰に巻くとは、わたしたちが縛られ、喜んで自分の自由を失うことを意味します。わたしたちは、わたしたちの愛する兄弟姉妹たちに何かを分け与えるために、自分の自由を放棄します。

5. わたしたちめいめいは、いかに兄弟姉妹たちに霊的な足洗いを分け与えて、彼らを地的なものとの接触から清めることによって、彼らを愛するかを学ばなければなりません。

6. わたしたちは汚れた足を数句で要約することができます。それは主との交わりにおいて新鮮さを失うこと、すなわち、清いけれども、主との新鮮な交わりに欠け

ていることです：

- a. 自分は今も、5年前や10年前と同じくらい主を尊び、愛していると言える人は多くいません。多くの人是一年前に持っていたのと同じ感覚さえ持っていないと言わなければなりません。
- b. 彼らの足は汚れており、疲れています。これが霊的な倦怠期です。それは霊的な新鮮さと活力を失うことです。
7. わたしたちの内には、不思議な新鮮さ、力、養い、供給がなければならず、わたしたちの臨在によって他の人たちは神を追い求めるようになります。他の人たちは神を追い求めることを願うべきであり、またわたしたちに会い、わたしたちと話をした結果、彼らの霊的なエネルギーが回復させられるべきです——参照、使徒20:20, 31。
8. わたしたちは日ごとに聖霊の更新を必要とします。それによって、わたしたちはいつも新鮮であり、元気づけられることができます——テトス3:5。 II コリント4:16-18。
9. 足を洗うとは、以前の感覚を取り戻し、わたしたちを命の新鮮さに連れ戻し、わたしたちに新鮮な強さを与えて、わたしたちがこれまで尊んでいたものを回復することを意味します。
10. わたしたちが認識しなければならないのは、主はわたしたちがいつも新鮮で、霊的に弱体化しないことを望んでいます——詩23:2。
11. わたしたちは勝利の生活を持ち、そのような生活をするためにその霊の助けを持たない限り、他の人たちの足を洗うことはできません。わたしたちの中のその霊は、わたしたちの慰め主、すなわち、わたしたちの案件、わたしたちの信念、わたしたちの諸事を顧みる方です——ピリピ1:19-21前半。
12. わたしたちのだれもが自分の足を洗ってもらう必要があります、また他の人たちの足を洗う準備ができている必要があります。
13. クリスマンたちが互いに分け与えるすべての奉仕の中で、足を洗うこと以上に重要で尊いものはありません。「これらの事を知って、それを行なうなら、あなたがたは幸いである」——ヨハネ13:17。
14. 足を洗うことは、わたしたちと主との間の親密な交わりを維持します。
15. どうか、わたしたちが毎日、新鮮で霊的な経験を持ちますように。ローマ人への手紙第15章32節は言います、「あなたがたと共に自分自身を新鮮にし安息するのです」。これが足洗いの結果です。
16. 「わたしたちはどのようにして互いの足を洗うことができるのでしょうか？ 仮にあなたがその日の仕事を終えて、疲れを感じるとします。あなたは自分の口から賛美をささげることができません。夜あなたが集会に来ると、だれかがあなたに祈るように求めます。祈りの途中で、それ以上祈れなくなり、祈るのをやめます。あなたは、自分の祈りはあたかもただの作文のように感じます。しかし、その集会には新鮮な霊を持っている兄弟がいて、彼の祈りがあなたの霊を新鮮にします。あなたの霊的な活力は更新されます。これが互いの足を洗い合うことです。多くの場合、わたしたちが集会に来ると、聖徒たちの霊が弱く、またしいたげら

れていることがわかります。わたしたちは祈り、御言葉を読みますが、何の役にも立たないように見えます。この理由は、みな足の汚れており、足を洗うためのたらいがないからです。まるでそれは、何かがわたしたちの霊を抑制しているかのようです。このような時、だれかが立ち上がり、祈りをささげたり、二、三句話して、みな足を洗うなら、集会全体が新鮮にされます。たらいがなく、また足洗いがなければ、みな霊は縛られています。同じことが、わたしたちの家庭生活にも言えます。兄弟か姉妹がたまたまあなたの家に立ち寄り、短時間交わったり証しをするなら、家族全員が神の臨在の中にもたらされます。それまでは、家族の者と神との間に隔りがありましたが、そのような単純な会話の後、隔りはすべてなくなります。これが互いの足を洗い合うことです。これを行なう人たちは、主の目に尊いのです。わたしたちは、他の人たちの足を洗うために、主の御前で熱望を持たなければなりません。他の人の足を洗うために、わたしたちは水を持っている必要があります。言い換えれば、わたしたちは聖霊に満たされている必要があります、主と絶えず交わっている必要があります。このためには、わたしたちは日々聖霊の中で生活をする必要があります。わたしたちは、こうしてはじめて他の人の足を洗うための生ける水を持ちます。わたしたちは集会に来る度に、他の人の足を洗うための生ける水を持っていなければなりません」(ウオッチマン・ニー全集、第42巻、第36編)。

IV. 霊的な足洗いがなければ、召会生活の実現は不可能であり、召会生活の実際は消え去るでしょう：

- A. ですから、日々の足洗いは、一方で、主ご自身によって、もう一方で、すべての聖徒によって実行される必要があります。
- B. そうすれば、わたしたちは卓越した交わりを維持し、それによって真の召会生活を持つでしょう。